

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270700111		
法人名	有限会社ウイングス		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	静岡県伊豆市市山243-2		
自己評価作成日	令和 5年 11月 18日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

より利用者様一人一人と深くかかわり、入所からお看取りまでを支援できるよう1ユニットにして1年が経ちました。ユニットが1つになったことで、今まで以上に一人一人に寄り添った支援を行っている。利用者様が楽しく元気にほほえみで10年！を目標に小員数で家族のような雰囲気与生活している。また食事にも力を入れ、見ておいしく、食べておいしく召し上がって頂けるよう工夫している。毎日それぞれの好き嫌いや、認知症からくる食べ方や嗜好の変化をみて形態を変えたり内容を変えて提供している。利用者様の言葉に耳を傾け、ケアマネを中心に職員が体操やレクリエーション、普段の会話の中で利用者様の希望や意見をくみ取り、できるだけ実現できるよう相談し実践している。1ユニットにして1年、利用者様からも「ずっとここに居たいね。」「動けなくなったらよろしく頼んだよ。」「こんなにいい所はないよね、幸せだね。」という声を直接聞くことができた。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2270700111-00&ServiceCd=320](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270700111-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 6年 1月 25日		

Instagramを開設し、家族や施設近隣住民、知人より好評を得ている。管理者夫妻は介護職員として現場に入り利用者の様子を把握し、他の職員とも情報を共有している。家族にも適時、様子が伝えられている。職員へのヒヤリングでは、職員同士が言いたいことが言える環境で、提案はすぐに聞いてもらえるため働きやすいという声が聞き取れた。建物2階のベランダは、歩行訓練後に皆で集う場所になっていて、トランプやゲームをしたり、おやつを食べたり、自然を満喫する場所として活用している。生活リハビリ以外に体操にも力を入れている。近所からは差し入れの野菜や果物、お米等が届き、月2回の認知症カフェに来てくれる方も多くなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階に認知症カフェを開設し、地域密着型サービスとして認知症に悩む方の憩いの場、またその家族の息抜きの場として提供している。	1ユニットにする際に職員と話し合い、理念に基づいた目標を設定して、職員一丸となって実践している。個人の目標を設定し自己評価シートで半年に1度実践を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に2回の認知症カフェの日には、利用者様もカフェに参加し地域の方、自宅で生活しているお年寄りの方と定期的に交流している。	自治会に加入し、地域の行事案内や近所のお寺の案内も得られている。認知症カフェは参加者も徐々に増え、新規開設したInstagramも好評である。近所の方や家族から野菜や果物、お米等の差し入れもあり、良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内に認知症カフェがあるため、来店された方の相談に乗ったり、認知症を抱えるご家族の悩みを聞きアドバイスをを行うなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策のため、未だ書面での開催が続いているが、近況を細かく報告し意見交換をしている。近々対面での開催を再開しようと相談している。	運営推進会議は、2か月に1回平日の14時から15時に開催され、12月からは対面で行っている。事前に案内を送付し、会議には、行政、地域包括支援センターの職員、民生委員、家族が参加し、近況や利用者の様子を報告し、頂いた意見は運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネや認知症カフェ担当者を中心に市役所担当者と定期的に連絡を取り、施設で行っていることや今後計画していることなどを伝えている。定期的に市の方も見学に来られることもある。	地域包括支援センター職員とは認知症カフェの開催で意見交換が頻繁にできている。キャラバンメイトにも協力し、事業所を地域の憩いの場や研修の場所として使用してもらっている。防災について行政と連絡を取り合い、わからないことは電話等で問い合わせしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を開き、職員で共有している。実際に身体拘束0を継続している。玄関や窓はすべて解錠していたが、生活スペースが2階のため、暗くなるのが早い冬季の間は防犯のため1階の玄関のみ施錠している。2階の窓やベランダへの扉はすべて開放している。	指針、マニュアルを備え、身体拘束を行わないケアを実践している。委員会は3か月に1回開催され、職員研修では「虐待について」「拘束について」「スピーチロックとは」等について学んでいる。課題があるとその都度職員で意見を出し話し合っている。	

静岡県(グループホームほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・暴力にあたる言動の勉強会を定期的に開催。また、自覚なく何気ない言葉が言葉の暴力や言葉の拘束に当たることもあるため、職員同士で互いに指摘できるような環境にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度に関しては管理者、職員含め勉強不足のため、今後少しづつ勉強会の機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はケアマネが一括して行っている。丁寧に説明し、ご家族からの要望を細かく聞き取り、職員に共有している。不安や疑問が解決するよう密に連絡を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会、受診などでご家族に会った際に利用者様の近況をお伝えするとともに、その都度ご家族のご意向や要望をうかがうようにしている。ケアマネ、職員で共有し現場に生かせるように努力している。	面会が再開され、家族が来所した際に様子を伝え、頻繁に来られない家族に対しては電話にて様子を伝え要望や意見を聞いている。インスタグラムで利用者の様子が家族に伝わるようになり、家族の声も拾えるようになり好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設運営者が夜勤や日勤の現場に職員とともに勤務しているため、日ごろから職員の些細な意見や思いを聴ける、相談できる環境にあるため、お互いに意見交換したり、希望を聞くことが多い。	管理者は日頃、介護職員として現場で勤務しているので、職員に意見を聞いたり、話をする機会がある。職員の様子を見て声かけを行い、職員の意見やアイデアを聞く環境を整え、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回職員に自己評価シートを記入してもらい適宜面談を行って評価している。努力や資格受験、勤務態度などを考慮しさらにやりがいをもって働いてもらえるように考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修や外部で開催しているレクリエーション研修などに積極的に職員に参加してもらっている。おむつの講習会も予定している。		

静岡県(グループホームほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会はあまりないが、外部の研修に参加する際に同じ介護職のかたと意見交換したりして、職員から報告をもっている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、現場職員を中心に本人に寄り添い、本人から素直な言葉が聞けるよう関係づくりに努めている。無理強いせず、自由に楽しく過ごせるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族連絡はケアマネが担当。連絡を密にとり、信頼関係が構築されるようご家族の意見を細かくきき、希望に添えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所するとその他のサービスは使えないが、入所の検討をされている方からの問い合わせの際にも親身に相談に乗り、時にはその利用者様の現状に合ったサービスと当施設以外で提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、本人、そのほかの利用者様含め全員で家族のように平和で元気に過ごせるよう、レクリエーションや日々の生活リハビリを通して関係づくりをしている。実際に利用者様同士も家族または姉妹のように冗談を言い合ったり、時にはお互いに相談したり指摘し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と定期的に面会していただく、時には外食や日帰りで自宅に帰られるよう支援をしている。またいつでも本人と電話ができる環境にしており、週に1回～2回お電話をくださるご家族もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、長年生活してきた環境での古くからの友人知人の方の面会も許可している。定期的に顔を見に来たよと様子を見に来てくれている。	コロナが5類に移行したので市の感染状況を見ながら、面会を再開している。居室で家族と面会できるように工夫し、家族に協力してもらい外出をしたり、時には昔からの友人が来てくれ、関係が途切れないよう、支援している。	

静岡県(グループホームほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人の人間なので合う合わないはありますが、お互いにいい関係で居られるメンバーで簡単にグループ分けし、洗濯ものたたみや食器拭きなど日常生活の中でも仲良く相談しながらお互いに助け合って生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された利用者様は、その施設に時々訪問し様子を窺ったり、時には面会させていただくこともある。契約終了後にご家族と連絡を取ることは少ないが、今後はそのような支援も進めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネが本人に直接施設生活での希望や思いを何気ない会話の中で聞き取りをしている。	管理者やケアマネジャー、職員は利用者の言動で思いや意向をくみ取り、その場で話し合ったり申し送りノートで情報共有を行っている。また、入居前の情報をもとに思いや意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、または入所してからもご家族や本人に生活歴やいままでの生活環境の聞き取りをし、現場での本人が安心して生活できるための材料としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネが現場に近い位置にいるため、利用者本人、または職員から直接聴き、アドバイスしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご家族や本人に今後の暮らしの意向や思いを聞き取り、時には医師や薬剤師にも相談し、みんなで話し合いをして介護計画を作成している。	介護支援経過記録を参考に、タブレットに入力されたデータや日頃の様子を見て、ケアマネジャーがモニタリングを行っている。また、変化があった時にはすぐに職員でカンファレンスを行い記録し、ケアマネジャーが現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に毎日の生活の様子や変化があったことなどを細かく記入し職員やケアマネも共有している。気になる文面があった際はケアマネと相談し、対策をしている。		

静岡県(グループホームほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全員が同じ生活をしてはいけなことを学び、一人ひとりを深く知り、その時々で柔軟に対応できるよう努力している。食事は一人一人の好き嫌いや食べ癖に合わせて食器や提供する食事のメニューもすべて変えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用することは今後の大きな課題になる。まわりの地域資源を理解して、利用者様の暮らしにプラスになるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に1回主治医が往診に来てくれている。ケアマネより、ご家族に主治医に関して説明し、理解を得ている。また、事情により他院への受診が必要な場合もご家族の意向に沿えるようしっかり話し合いをしている。	利用者全員が月に2回、協力医の往診を受けている。利用者の体調の相談はオンライン診療を取り入れ、往診日以外でも対応してくれる。眼科等の他科受診は家族が対応しているが、職員も同席することもある。訪問看護師が必要になると協力医が対応してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師が居ないため、相談したいことは主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院に関してはケアマネが一括して担当している。病院関係者、家族との連絡を密にし早期に退院し施設で安全に生活できるよう意見交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1ユニットにするにあたって、看取りまでの支援を行うことになった。その際にもご家族全員と連絡を取り、重度化した場合、お看取りに関しての説明を行った。主治医もお看取りに関しては定期的な往診以外にも積極的に協力してくれると言ってくれている。	入居時に看取りまで説明し、家族の意向を確認している。重度化や終末期の状態になった時には、家族に医師の診断を説明し、家族の意向を確認した上で同意書をもっている。現在、利用者の家族は全員看取りまで希望されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や心臓マッサージなどの訓練は勉強不足なため、今後の課題にしたい。		

静岡県(グループホームほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、利用者様が安全に非難できるよう日々熟考している。夜間帯が夜勤者一人のため、近隣住民や近隣に住む職員の協力が必要なため、大きな課題になる。	年に2回、防災訓練を行っている。主に地震からの火災で、停電を想定した非常食を食べる訓練や火災で夜間想定訓練を行い、近くに住む元職員や職員の協力を得ている。職員の連絡網、LINE連絡網は整備され訓練も行われ、2階から1階への垂直訓練、停電での対応と様々なシミュレーションを行っている。	備品備蓄は準備されているが、リストが完全ではないので、作成して管理できるように整備を望みます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を気づけない言葉遣い、言葉遣いのマナーの勉強会を定期的に開催している。また、何気ない言葉が上から目線で合ったりまだまだ勉強不足なことも多い。お互いに指摘し合える環境づくりも行っている。	利用者への声かけや言葉使いの研修は随時、気づいたときに行っている。話し合った内容は口頭や連絡ノートで情報共有している。また、職員同士は互いに指摘しあえる関係を築き、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でレクリエーションや食べたいもの、やりたいことなど職員発信ではなく、利用者様に常に問いかけ意見を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9人それぞれの生活ペースに合わせた支援ができるよう努めている。実際に起床の時間も定めないこととし、それぞれのその時間にやりたいことや生活のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は選べる方はご自分で衣服を選んでいただいている。ネックレスや時計など気に入ってつけている方もいる。選ばない方は、本人と相談しながら自己決定しやすく促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく楽しく食べられるよう、それぞれの好みに合わせて工夫している。野菜の下処理や食器の片付けなど利用者様と一緒にやっている。	1ユニットにする時に試食をして業者を決め、週に2回冷凍で配達してもらっている。また近所や家族から野菜や果物お米等の差し入れがあるので、それらを利用者の好みに調理し、食器や盛り付けも工夫している。利用者は食器ふきなどの片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士の講習を受け、アドバイスを頂いている。水分を摂りたがらない方へは飲み物の種類を変えたり、ゼリーやプリンで対応するなど工夫している。		

静岡県(グループホームほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全員口腔ケアを実施している。介助が必要な方を早期に見極め適宜介助に入っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症がゆえにトイレを嫌煙したり、尿意が分からなくなってしまう方に対し、快く失敗する前にトイレにいけるような声掛けや信頼関係の構築に努めている。職員間でも声掛けの仕方の共有をしている。	排泄チェック表に利用者のパターンを記録し把握しながら、時間や利用者の表情やしぐさでトイレ誘導を行っている。トイレへの誘導や声かけの仕方は個々の利用者によって工夫し、その情報は職員で共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力薬に頼らないよう、ケアマネを中心に食事の中に便秘の解消にいい食品を取り入れるように努めている。実際に以前に比べ下剤の使用量が激変し、使用している方も少なくなった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	極力利用者様から、「今日はいたい」と声が上がった際は入浴できるよう努めている。シャワーが苦手な方にはかけ湯をしたり、熱い湯を好む方には好みの温度に合わせるようにしている。	週に2回入浴支援を行っている。曜日は固定せず、利用者への声かけは工夫して行っているが無理強いはしないようにしている。入浴剤や季節風呂等で入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜ぐっすり眠れるよう、冬季は湯たんぽを使用したり工夫している。認知症がゆえに夜間不眠の方はお薬に頼ることもあるが、極力本人が安心して入眠できるよう寄り添って声掛けすることに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアマネと職員で薬の管理を行ない、薬情を確認しながら内容を理解し服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の趣味や恰好を理解し、季節の花を活けてもらったり、縫物をしてもらったり役割りや達成感の持てる環境づくりに努めている。		

静岡県(グループホームほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望通りの外出はなかなか叶わないが、極力天気がいい日には外に出て日の光を浴びられるようにベランダや外に出る、暖かい季節はベランダで食事を摂ることもある。外食はご家族に依頼し、一緒に過ごす時間を作って頂いている。	利用者の多くはベランダが好きなので、外気浴をしたり、トランプやゲーム、お茶や食事をしている。時々近所の方が通り、声かけをしてくれる。廊下で歩行訓練を行ったり、散歩に出かけるなどの個別支援を行い、家族には外出や外食で連れ出してもらおうよう依頼している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は持ち込み不可としているため、金銭をもつ機会はほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自分からかけることは難しいが、ご家族からの来電はいつでも本人につなげる環境にしているため、頻繁に声を聞きたくてと電話をくださるご家族もいる。その際はゆっくりお話ができるよう環境の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を利用者様と共に飾りつけしている。暖かい明るい雰囲気になるよう工夫している。特に廊下とテレビのある共有フロアは季節感がしっかりわかるような装飾にしている。	居間は陽当たりが良く、窓から四季の移り変わりがわかる山々が見える。居間や廊下には、季節感があるものを利用者も一緒に飾り、ちぎり絵の共同制作、雑巾縫い、洗濯物たたみも居間で楽しく行っている。感染対策に留意し、こまめな換気や、消毒も定期的に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルを3ブロックに分け、気の合った利用者同士で会話を楽しんだりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力ご自分の部屋にあるものは、自宅で生活していたものをそのまま持ってきていただくようにご家族に話をしている。	備え付けのクローゼットがあり、自宅から持ち込まれたタンスや衣装ケースの上には家族の写真やぬいぐるみが飾ってある。居室の一部に掲示コーナーを設け、家族からの手紙やプレゼント、自分の作品などが掲示してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極力自分で居室やトイレに行けるよう、張り紙などで迷わないよう工夫している。普段の食器拭きなどに使用する者は利用者様の目の届く位置に置き、自分たちから「やるよ!!!」と声上がるよう工夫している。		